



20



古文

(1)



☆歴史的かなづかいの読み方

古文は歴史的かなづかいで書かれているので、現代かなづかに直して読む。

- ① 原則として、語頭以外の「は・ひ・ふ・へ・ほ」は、「わ・い・う・え・お」と読む。

(例) あはれ↓あわれ なほ↓なお

1 次の古文とその現代語訳を読んで、あとの問いに答えなさい。

(古文)

今は昔、震旦※1しんだん※2さうしに莊子※3さぶしといふ人ありけり、心賢くして悟り広し。

① この人、道を行く間、沢さの中に一の鷺さぎありて、ものをうかがひて立てり。莊子、これを見てひそかに鷺を打たむと思ひて杖を取りて近く寄るに、鷺にげず。莊子、これをあやしむで、いよいよ近く寄りて見れば、鷺、一の蝦えびを食はむとして立てるなりけり。
③ しかれば人の打たむとするを知らざるなりと知りぬ。また、その鷺の食はむとする蝦を見れば、にげずしてあり。④ これまた、一の小虫を食はむとして鷺のうかがふを知らず。
⑤

その時に莊子、杖を捨ててにげて心の内に思はく、
⑥ 皆、我を害せんとする事を知らずしておのおの、他を害せん事を
⑩ のみ思ふ。我また、鷺を打たむとするに、まさる者ありて我を害せんとするを知らじ。しかればしかじ、我、にげなん」と思ひて

- ② 「ゐ」「ゑ」は「い」「え」と読む。 (例) ゐる↓いる

- ③ 「ぢ」「づ」は「じ」「ず」と読む。 (例) もみぢ↓もみじ

- ④ 助詞以外の「を」は「お」と読む。 (例) をとこ↓おとこ

- ⑤ au・iu・eu・ouと母音が連続するときは、ô・yû・yô・ôと読む。

(例) やうやう↓ようよう けふ↓きよう

問一 〈かなづかい〉 線a「うかがひて」、b「思はく」を現代かなづかに直し、ひらがなで書きなさい。

a _____ b _____

問二 〈指示語〉 線①「この人」、④「これ」は何(だれ)を指していますか。それぞれ古文中から書き抜きなさい。

① _____ ④ _____

問三 〈現代語訳〉 線②「打たむと思ひて」、③「知りぬ」の現代語訳にあたる部分をそれぞれ書き抜きなさい。

② _____ ③ _____

走り去りぬ。これ、賢き事なり。人、かくのごとき思ふべし。^⑦

(『今昔物語集』)

(現代語訳)

今ではもう昔のことだが、震旦に莊子という人がいた。聡明で学問や知識が広かった。

この人が、道を歩いていると、沼地^{ぬまち}に一羽の鷺^{さぎ}がいて、何かをねらって立っていた。莊子は、これを見て、ひそかにこの鷺を打ってやろうと思い、杖を取って近づいて行ったが、鷺はにげよう⁵としない。莊子は、これを不思議に思っ、いつそう近寄って見ると、鷺は、一匹^{いっぴき}の蝦^{えび}を食おうとして(じっと)立っているのだった。そのため人が打とうとしているのに気づかないのだとわかった。また、その鷺が食おうとしている蝦を見ると、これにもにげずに(そこに)いる。これもまた、一匹の小虫を食おうとして鷺¹⁰がねらっているのに気づかないのであった。

これを見た莊子は、杖を投げ捨ててにげ出し心の中で思うことには、「鷺も蝦も皆、(何者かが)自分を害しようとすることに気がつかず、おのおの他のもの^{ほか}を害しようとのみ思っている。私もまた、鷺を打とうとして、(私に)まさる者がいて私を害しよう¹⁵としているのに気がつかないだろう。それならばいっそのこと、私は、にげてしまおう^⑧」と思い、(そこから)走り去った。これは、賢明な^{けんめい}ことである。人は皆、このように思うべきである。

※1 震旦 中国のこと。

※2 莊子 中国の戦国時代の思想家。

※3 鷺 Ⅱ サギ科の鳥の総称。くちばし・首・足が長く、水辺にすむ。

問四 (動作主) — 線⑤ 「知らず」、⑦ 「走り去りぬ」の動作主

(主語)を次のうちから一つずつ選び、それぞれ記号で答えなさい。

ア 莊子 イ 鷺
ウ 蝦 エ 小虫 (5) (7)

問五 (内容吟味) — 線⑥ 「鷺・蝦、皆、我を害せんとする事を知らず」とありますが、これをわかりやすく説明した次の文の□□にあてはまる言葉を古文中からそれぞれ書き抜きなさい。

鷺は⁽¹⁾ を食べようとして人に打たれようとしていることに気づかず、蝦は⁽²⁾ を食べようとして に ⁽³⁾

ねらわれていることに気づいていない。

問六 (文脈把握) — 線⑧ 「人は皆、このように思うべきである」とありますが、どう思うべきだと述べていますか。最も適切なものを次のうちから選び、記号で答えなさい。

ア だれかと争うとき、相手が弱いと思って油断をしないと、敗れてしまうことがあるので、注意しなければならぬ。

イ 他のだれかに勝とうと思うなら、その人が他のものに心を奪^{うば}われているすきをねらわなければならない。

ウ だれかに危害を加えようとするとき、自分もまた、他から害を加えられるのかもしれない。

エ だれかに危害を加えられそうになったときは、抵抗せず、じっとしているほうがよい。

()

2 次の古文とその現代語訳を読んで、あとの問いに答えなさい。

(古文)

田舎いなかからとまり客があるに、居風呂すふろをたて、いれられしに、此この客風呂に入りて半時ばかり音も沙汰さたもなし。亭主ていしゅきづかひに思へど、「はやく上がられよ」ともいひにく、湯殿ゆどのの口くちにた、ずみて「ゆるりとお入いりなされ」といへば返事へんじするをき、まづ落ち着きて居るに、待てど暮らせど音もなし。又も不審ふしんに思ひ、又々、「ゆるりとお入いりなされ」といへば返事へんじのこゑあり。や、久しくして、海老えびのごとく赤くなりて風呂より上あがる。つれの客が見て、「いかう長湯ながゆを召めさせられた」といへば、「ハテ御馳走ごちそうではあらうが、湯を強しいられるもせつないもんだ」。

(現代語訳)

(大田南畝『鯛の味噌津』)

田舎とからの泊まり客があるので、すえ風呂をわかしお入れになつたところ、この客は風呂に入つて一時間ほど反応がない。亭主は心配に思つたけれど、「早くお上がりなさい」とも言いにくく、浴室の入り口にたたずんで、「ゆつくりとお入いりなさい」と言うと(客が)返事をするのを聞いて、一応安心していると、いつまで待5つても反応がない。(亭主は)またも疑わしく思つて、また「ゆつくりとお入いりなさい」と言うのと返事の声こゑがした。だいたい時間がたつて、(客はゆでた)えびのように赤くなつて風呂から上あがる。連れの客が見て、「大変長湯をなされました」と言うと、「はて、もてなしであらうが、風呂を強制されるのもつらいものです」。

10

問一 〈かなづかい〉 線a「きづかひ」、b「思へど」を現代

かなづかいに直し、ひらがなで書きなさい。

a _____ b _____

問二 〈文脈把握〉 亭主が客に対して思つていても言えなかつた

言葉を古文中から八字で書き抜きなさい。

--	--	--	--	--	--	--	--

問三 〈内容吟味〉 線部「返事のこゑあり」とありますが、

このとき、風呂に入つていた客は、本当はどうしたかつたのだと考えられますか。現代語で十五字以内で書きなさい。

--	--	--	--	--	--	--	--

問四 〈内容吟味〉 この文章の内容に合っているものを次のうち

から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 田舎からの客は、繰り返しすすめてくれる亭主のおかげで、遠慮えんりょせずに長湯を楽しめた。

イ 田舎からの客は、亭主の言葉をそのまま受け取り、我慢して長湯をしていた。

ウ 田舎からの客は、入浴中に気分が悪くなり、しばらく風呂から出られなかった。

エ 田舎からの客は、風呂の湯がぬるかつたので、ほどよい温度になるまで入っていた。

()

言語・文法 重要な古語



古語の中には、現代語にない古文特有の語や、現代語と意味の異なる語があるので注意する。

◆現代語にない古文特有の語

古語	意味
いと	たいそう。とても。
げに	まったく。本当に。
やうやう	だんだん。次第に。
いみじ	はなはだしい。立派だ。
うし	つらい。ゆううつだ。
ゆかし	見たい。聞きたい。知りたい。
さらなり	言うまでもない。
つれづれなり	することがなくて手もちぶさただ。

◆現代語と意味の異なる語

古語	意味
おどろく	はっと気がつく。はっと目が覚める。
にほふ	美しく染まる。
あさまし	驚き、あきれるばかりだ。がっかりだ。
をかし	趣がある。風情がある。
かなし	かわいい。いとしい。
うつくし	かわいらしい。
めでたし	すばらしい。すぐれている。
はづかし	こちらが恥ずかしくなるほど立派だ。
あはれなり	しみじみとした趣がある。

漢字の学習

(1)	海を埋め立てる。	(11)	カイギで発言する。
(2)	任務を放棄する。	(12)	葉がはらはらとちる。
(3)	がけが崩れる。	(13)	おこづかいをチョキンする。
(4)	来た道を戻る。	(14)	ケンリを主張する。
(5)	冷房のスイッチを入れる。	(15)	山田さんフサイと食事する。
(6)	本を返却する。	(16)	ピンケツでたおれる。
(7)	廃品を回収する。	(17)	テキリヨウの塩を入れる。
(8)	けがの治療をする。	(18)	ホウセキを身に付ける。
(9)	循環バスに乗る。	(19)	遅刻したワケを話す。
(10)	特殊なペンキでぬる。	(20)	いろいろなシユダンを試す。



思考と表現 (3)

1 ある中学校の給食委員会では、最近学校で給食を残す人が増えていることから、給食を残さず食べることを全校生徒に促すために「給食委員会からのお知らせ」と題し、ちらしを作りました。このお知らせと、このお知らせを見た井上さんと山本さんの「会話」を読んで、あとの問いに答えなさい。

【給食委員会からのお知らせ】

給食を残さず食べよう！

最近、校内では給食を残す人が増えています。食べ残された給食は、たとえまだ食べられるものであったとしても廃棄処分となります。好き嫌いなどの理由から給食を残すことは、食品ロスという深刻な問題につながるのです。

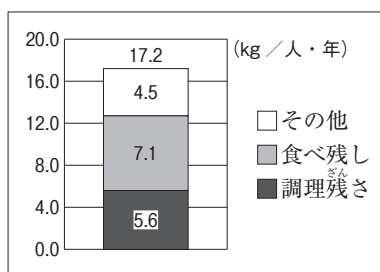
食品ロスとは？

食品ロスとは、食べ残しや売れ残り、期限切れなどの理由から、食べられる状態であるにもかかわらず廃棄されてしまう食品のことです。日本では出る食品廃棄物等は、年間二千八百四十二万トンにもなりますが、そのうち約六百四十六万トンが食品ロスによるものとされています。（消費者庁「食品ロス削減関係参考資料（平成30年6月21日版）」より）

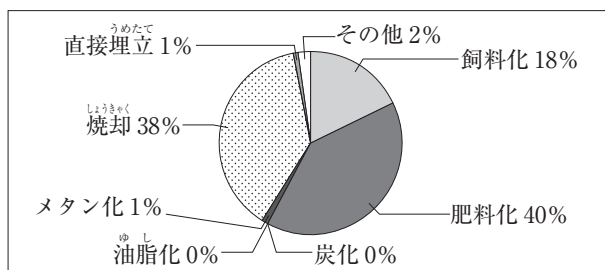


食品ロスの中で、学校給食におけるものの統計は次のとおりです。環境省によると、給食による食品ロスは年間約五万トンにもなると言われています。

【資料Ⅰ】児童・生徒1人あたりの年間の食品廃棄物発生量（平成25年度推計）



【資料Ⅱ】食品ロスの処理・リサイクル方法の割合



【資料Ⅰ・資料Ⅱ】環境省「平成26年度学校給食センターからの食品廃棄物の発生量・処理状況調査結果」より

学校では来月、栄養士の方をお招きして食育指導を行う予定です。皆さんもこれを機に、食について見直してみませんか。

【会話】

井上 【資料Ⅰ】を見ると、給食を作るうえで出る食品廃棄物である「調理残さ」と給食を食べるときに出る「食べ残し」が学校給食で出る食品廃棄物の主な項目として挙がっているね。

山本 この二つの項目を見比べると、Aということがわかるね。

井上 【資料Ⅱ】からは、残された給食は処分されるだけでなく、さまざまな用途にも使われ、できるだけ無駄が少なくなるように工夫されていることが見て取れるよ。

山本 学校給食によって食品ロスとなった食材は、「飼料化」や「肥料化」のようにBんだね。一方、「焼却」など、ごみとしてそのまま処分されてしまうものも多くあるんだね。

井上 ごみを少しでも減らすためにも、給食は好き嫌いなく食べて、なるべく残さないようにすることが大切だということがわかったよ。

山本 このお知らせや来月の食育指導の効果によって、給食を残さず食べる人が増えていくといいよね。

問一

会話文中のAにあてはまる言葉として最も適切なものを次のうちから選び、記号で答えなさい。

ア 児童・生徒一人あたりにつき、年間の「食べ残し」の量は「調理残さ」の量の二倍以上である

イ 児童・生徒一人あたりの年間の「調理残さ」の量は、全体の5.6%を占める約1kgである

ウ 児童・生徒一人あたりにつき、年間の「調理残さ」の量は「食べ残し」の量の約80%となっている

エ 児童・生徒一人あたりにつき、年間約17kgもの「調理残さ」による廃棄がなされている

()

問二

会話文中のBに入れるのに適切な内容を、次の〈条件〉に従って十五字以上二十字以内で書きなさい。

〈条件〉

1、「リサイクル」「ごみ」という二つの言葉を使うこと。

2、「飼料化」や「肥料化」によってどのような効果が得られるのかについて書くこと。
